

## ⑱ブロッコリーを育てる

# 追肥すれば長く楽しめる

ブロッコリーはケールが祖先のアブラナ科の植物で、花芽を食べる野菜です。地中海沿岸が原産とされ、日本へは明治時代にカリフラワーと共に入ってきました。ビタミンB、ビタミンC、カロテンや鉄分を豊富に含み、サラダやシチュー、妙め物から蒸し物まで幅広く食されます。

①育苗用の種まき 育苗箱に育苗用土を入れ、5～6センチの間隔ですじまきします。軽く覆土をして水をかけ、乾燥しないように新聞紙で覆いをします。発芽し始めたら新聞紙は取り除き、強雨や強光線に当てないようにポリフィルムやカンレイシャなどで、雨よけ、日よけをします（ポリ鉢に直接種まきも可能）。

②仮植 発芽後、込み合ったところを間引き、本葉2、3枚になったら仮植をします。植える1～2週間前に1平方メートルあたり完熟堆肥3キロ、苦土石灰100～120グラム、化成肥料（成分15・15・15）50グラムを施して耕し、うね幅90センチの仮植床をつくります。仮植間隔は12×12センチとし、仮植後は十分かん水をします（ポリ鉢に鉢上げも可能）。

③畑の準備 植え付けの2週間前までに、苦土石灰を1平方メートルあたり150グラム全面散布してよく耕し、その1週間後に、うね幅80～90センチに溝を切って元肥を1平方メートルあたり堆肥3キロ、化成肥料（成分15・15・15）100グラムを施したあと耕します。

④植え付け 本葉5、6枚の頃、植え付けます。苗の根土をくずさないように50～60センチの株間で植え付け、たっぷりと水をかけます。

⑤追肥・土寄せ 植え付けの2週間後、本葉7、8枚の頃、1株に追肥用化成肥料（成分16・0・16）を20グラム程度株まわりに施し、その後は3～4週間ごとに2～3回うね間に追肥をします。その都度、中耕と土寄せをします。

⑥病害虫防除 病気では、べと病、立枯病などが発生します。害虫はアオムシ、ヨトウムシ、コナガなど。発生初期は被害株の除去や捕殺などにより防除しますが、被害が拡大した場合は殺虫剤で防除します。

⑦収穫 花蕾が10～20センチ程度になったら葉を2、3枚つけて収穫します。その下のわき芽に花蕾ができるので、株の勢いが低下しないように追肥すると、長期間収穫を楽しめます。

（鹿児島市都市農業センター）

